

民主化闘争情報

No. 899
2013年11月29日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

11月28日、参議院国土交通委員会において、JR北海道の野島社長他2名を参考人として招致し集中審議が行われた。民主党・広田議員の質問に対し、JR北海道・野島社長は「安全問題について4つの労働組合と一同に会して忌憚のない意見交換の場」の設置を明言した。

野島社長「安全問題で4つの組合と一同に会した意見交換の場」を明言

参議院国土交通委員会の集中審議で質問に立った民主党の広田一議員がJR北海道の危機的状況の中で「4つの組合が安全問題で一つになれないのか」と質問したのに対し、JR北海道・野島社長は「4つの労働組合と一同に会して忌憚のない意見交換の場を設けてまいりたい」と会社の考えを示した。

(広田議員)・・・労使関係についてお伺いします。安全性向上の為の行動計画には、安全に対する労使の取り組みを課題の一つとして取り上げています。労使の建設的な意見交換をはかるとの記載がなされています。JR北海道には大小4つの組合が存在します。関係者以外の方から見ますと一つの会社に何で4つも組合があるのかと思われる方が多いと思われれます。これは言い換えれば国鉄改革、饒舌に尽くしがたい歴史的経緯があったんだろうと思います。よってそれぞれの組合の方々、現場では厳しい対立等があることも承知しています。一方で、こと鉄道の運行の安全については、組合とか経営側とかそういったものは関係なく逆に組合側、経営側が車の両輪となって取り組んでいかなければならないと思います。一方の輪の組合側は4つありますが、衆議院の議論を見てもそれぞれについて先ほども答弁ありましたが、労働協約に基づいて協議をしている、団体交渉も行っているとお話がありました。平時であればいいのかも分かりません。JR北海道にとっては非常事態であります。私はやはり経営側と4つの組合の皆さんが一同に会して同じテーブルでこの鉄道の運行の安全について協議をする、議論をする、そういう場をつくっていかなくてはならないと思っています。

(野島社長) 当社ではこれまで安全問題や事故防止に関する事柄については、各労働組合との労働協約に基づき個別に団体交渉で協議をしてきており、これまで特に問題がないと考えています。しかしながら、昨今の一連の事故、事象を契機としまして、当社は現在ご利用されるお客様はじめ各方面の方々から、当社の安全確立に向けた取り組みに対して多くの不安あるいは疑問を示されるというご意見、ご批判をいただいています。こうした状況を謙虚に受け止めまして、安全はご指摘のとおり労使の垣根を越えて一致協力して取り組むべきテーマであることから、今回新たに会社といたしまして安全問題について4つの労働組合と一同に会して忌憚のない意見交換の場を設けてまいりたいと考えております。

(広田議員) 是非ともその取り組みを早期に実現をしていただいて、今何が問題なのか率直な意見交換、協議をしていただきたい。

JR連合・JR北労組は、11月21日に「JR北海道再生プラン～信頼回復と再生を果たすための8つの提言」を会社に対し申し入れを行った。これまでの歪な労使関係を見直し、再生に向けた真の労使協議を行い、JR北海道の再生につなげよう！